# 外来がん薬物治療情報提供書

がん化学療法を行っている患者の副作用の重症度を確認できるツールを作成しました。

(特に、緊急受診が必要な副作用を判断できるように)

▶ 作成にあたりCTCAE・がん薬物療法に伴う皮膚障害アトラス&マネジメント・がん薬物療法専門医のアドバイスをもとに当院独自の情報提供書を作成しています。



# 外来がん薬物治療情報提供書

### 大阪市立大学医学部附属病院外来がん薬物治療情報提供書

								4	Ħ	$\vdash$
保険薬局名	薬局						薬局FAX番号			
薬剤師名		処方箋発征	百日	年	月	В	薬局電話番号			
患者氏名		患者ID					聞き取り日			
診療科		医師名					聞き取り対象者	□患者	本人[	□家族
報告に対する患者同意		口有	口無	(診療上必要と認められるため情報提供します)						
治療内容(しら)メン、薬剤(なたど)										

緊急連絡が必要な重篤の症状(ありの場合は患者より医師に連絡する様に指示してください。)						
症状・病名	■第の症状 GrAE と記載されている症状はチェックポイント即害薬使用患者に使用)					
感染症		38°C以上の発熱・咽頭痛・排尿痛などがあり、発熱時抗菌薬の指示がない				
間質性肺炎		37.5 C以上の発熱を伴う新たに発現した(増悪した)呼吸困難・空咳・息切れ				
重篤な出血		吐血・下血・嗜血・血尿等				
浮腰		3日以内に2kg以上の急激な体重増がある				
重症筋無力症・筋炎 (irAE)		まぶたが下がってくる・手足に力が入らない				
心筋炎(irAE)		動悸・胸が締めつけられるような痛み				
1 型糖尿病 (irAE)		異常な喉の渇き、多尿				
重度の皮疹 (jrAE)		全身に広がる発疹、水ぶくれ、喉の充血				
大腸炎(irAE)		激しい腹痛・血便・無色便				

その他下配の中等度以上の有害事象を聴取した場合、聴取した症状に「どうけ、症状の詳細・指導内容・提案内容を記載してください

症状・病名 中等度の症状 4-6 回/日の排便回数の増加 人工肛門からの排泄量の中等度増加 回以上/日の排便回数の増加人工肛門からの排泄量の高度増加 便秘 緩下薬または浣腸の定期的使用を要する持続的症状 摘便を要する頭因な便物 食欲不振・ 吐き気・嘔吐 カロリーや水分の経口摂取がまったくできない 高度の底痕(経口摂取に支煙がある) 高度の症状(身の同りの日業生活動作の制限) 顧而・繋幹・四肢に全体で 100 個前後の丘疹・膿疱を認 疼痛・そう痒を常に感じる。他人との面会が億劫 手足症候群 (HFS) 手拳・足底に発示・水疱形成が見られ、疼痛を時に じ、日常生活の作業・歩行に差し支えることがある 発赤・腫脹が見られ、疼痛を時に感じ 業に差し支えることがある。 八田炎 芽腫を生じ、日常生活の作業が行いづらく、歩行しづら 疲労感 て軽快しない疲労 しない疲労 収縮期血圧≥160mmHg または拡張期血圧2 高血圧 症状の詳細・指導内容・提案内容など

中等症の副作用 (CTCAE G2程度) ⇒本提供書で報告 してください。

口内容を確認し、肌力医へ報告しました。

この FAX による情報伝達は疑義照会ではありません。

苯制铁 薬剤部 FAX 受付 → 化学療法室 薬剤師 緊急受診(連絡)が必要な症状 ⇒患者から医師へ早急に連絡 するように指示してください

重症の副作用(CTCAE G3程度) ⇒外来・かかりつけ医受診を 促してください

## 当院の運用

外来がん薬物治療情報提供書をFAX送信 FAX番号06-6646-6051(平日9:00~16:30)



化学療法室担当薬剤師がFAXを確認



担当薬剤師が内容を評価して電子カルテにFAX内容を取り込む



保険薬局に返信



# 注意点

- 本運用は外来がん薬物治療情報提供書による情報提供に限った運用です。
- 外来がん薬物治療情報提供書は緊急性は低いものの 処方医に伝える必要があると判断された内容、または緊 急時の対応が終了した内容が対象です。
- 保険薬局独自のトレーシングレポートなど他のフォーマットを使用する場合は当院外来がん薬物治療情報提供書にも記載の上、同時に送付してください。

